****
隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」　第 341 号
－環境・農業・食べ物など情報の交流誌－
2012.10.05（金）発行　　山崎農業研究所＆編集同人
＜キーワード＞
環境・農業・健康・食べ物などの情報提供、高齢者と若者、農村と都市の
交流ミニコミ誌。山崎農業研究所＆『電子耕』編集同人が編集・発行。
http://www.yamazaki-i.org
**********発行部数 1118 部**********

□ 目　次　□----------

＜巻頭言＞　福島のジレンマ　渡邊　博
＜イベントのご案内＞　「脱成長」が時代のキーワード！
＜お知らせ＞　山崎農業研究所所報『耕 No.127』発行されました
＜編集後記＞　脱原発は矛盾に満ちた人間のあり方を直視することから

＜巻頭言＞　福島のジレンマ

目に見えない恐怖ほど怖いものはない。何が安全で何が危険なのか日常的感覚では判断しようがないからである。ある程度予想されていたことではあるが、放射能の土壌固定や農家の除染対策が進み、今年の福島の農産物から検出された放射能は去年よりだいぶ少なくなった。しかし、生活環境の面からみれば、放射能のリスクは全く改善されていない。福島市内でも 1μS/hr を大きく超える地点は少なくなく、基準値の数十倍の放射線量がいまだに空中を漂っている。農家は収穫物の放射能汚染が低レベルであったことに安堵する一方で、そこで生活することには大きな不安を感じている。

科学的根拠のない風評被害に悩まされている福島であるが、同じように根拠のない安全神話もいつのまにか定着してきている。先日福島市内で行われた「放射能問題に関するワークショップ」に参加した中で、ベラルーシでの取り組み事例の報告があった。ETHOS プログラムである。ベラルーシでは、チェリノブイリ原発事故から 10 年間は適正な対応がほとんどなされず、住民もいつの間にか放射能汚染に鈍感な生活を送るようになった。その結果、子供の甲状腺がんが多発するという悲劇を起こしてしまったのである。その反省から、1）住民と専門家の信頼回復、2）継続的できめ細かな汚染モニタリング、健康管理、3）除染対策、食品安全管理の継続化をはかり、4）政府、地方行政はこ

れらの実現のために全責任を負う、すなわち、民間と政府の協力関係による実効性のある放射能対策を構築するというものである。

ETHOS プログラムは汚染地域に住民を押し込めるものであるといった批判的な意見もある。しかし、ETHOS プログラム実行後は甲状腺がんの発症は激減しているという現実もあり（ゼロでないところが悩ましい）、定住か避難かのジレンマに悩まされている福島では検討に値するかもしれない。なによりも、放射能汚染に鈍感になってはまずいのである。行政、専門家、医療機関、学校、農家、住民等の協力関係の構築により、科学的根拠に基づいた「放射能を正しく怖がる放射能防護文化」を醸成する必要性を痛感する。

渡邊　博
山崎農業研究所幹事
yamazaki@yamazaki-i.org

＜イベントのご案内＞　「脱成長」が時代のキーワード！

紀伊國屋書店　新宿南店で行なわれる、ブックフェアならびに関連トークイベントのご案内です。

------◆ブックフェア◆----------

「“脱成長な生き方●感じる・創る・動く”
大江正章が選んだ、いま読んでほしい本」
フェア開催期間　9 月 16 日（日）～10 月 31 日（水）　5 階売場

福島原発事故から 1 年半。
経済成長ばかりを追い求めてきた日本人はこれからどんな社会をめざしていけばよいのか。
本当の幸せとは何か。
「脱成長」をキーワードにこれからの生き方を考えることを提案する、入魂のブックフェアです。

普段店頭でなかなか出会えない本もたくさん集めました。
ぜひこの機会に、直接手に取ってお選びください。

------◆関連トークイベント◆----------

“super wakuwaku live talk@ふらっとすぽっと”
『脱成長の道』（コモンズ刊）の編著者・勝俣誠さんのライブトーク

出演者
●勝俣　誠（かつまた・まこと）明治学院大学教授。国際政治経済論専攻
●金子美登（かねこ・よしのり）有機農業家。NHK「プロフェッショナル仕事の流儀」出演で一躍カリスマ的存在に
●大江正章（おおえ・ただあき）コモンズ代表。出版領域は環境・農・食・アジアなど

トークセッションでは編者の勝俣さんと日本の有機農業の第一人者である金子美登さんが、小利大安（利益は小さくても大きな安心がある）の社会や自給的農の楽しさ、若者の農への関心などについて語り合います。

日時　10 月 19 日（金）19：00 より
場所　３階イベントスペース〈ふらっとすぽっと〉
（入場無料・申込不要）

※詳細はこちらをご参照ください。
紀伊國屋書店新宿南店ウェブサイト
http://www.kinokuniya.co.jp/store/Shinjuku-South-Store/20120911133000.html

---

＜お知らせ＞　山崎農業研究所所報『耕 No.127』発行されました

山崎農業研究所所報『耕 No.127』が発行されました。
ご希望の方には雑誌を頒布（有料：1,000 円）いたします。
yamazaki@yamazaki-i.org
までご連絡ください。

目次（抜粋）
《土と太陽と》（巻頭言）
農地の放射能汚染問題の解明◎塩沢 昌

［第 37 回研究所総会・総会記念シンポジウム］
■総会記念シンポジウム「東日本大震災と農業・農村」
⑴東日本大震災による農業インフラの被災状況◎渡邊 博
⑵福島―希望への道筋を探りながら◎戎谷徹也
⑶風評被害を乗り越える経営力を求めて
　―東海 JCO からフクシマ◎照沼勝浩
［特別寄稿］
放射性物質汚染の過度な危険視が農業復興を阻む◎西尾道徳
土壌生成理論・腐植前駆物質による放射能汚染対策の
可能性について◎高味充日児
〈連載〉畦道・赤トンボのナショナリズム［18・最終回］
情愛のふるさと／宇根 豊

＜編集後記＞　脱原発は矛盾に満ちた人間のあり方を直視することから

東京新聞（09/30）に哲学者・内山節さんの書いたエッセイ「自然に対する傲慢を問う」が掲載された。

自然の算奪を当然のことのように考え、ためらいもなく肯定する精神が、傲慢な人間社会をつくりだしたことを指摘し、今日の最大の問題は、自然を算奪しながら展開してきた人間の歴史をどう考えたらいいのかという問いをもちながら生きていかなければいけないということを、人間自身が忘れてしまったことにあるという。

かつての日本の社会には、「何々させていただていている」という言葉がよく用いられたと内山さんは言う。自分がしている、ではなく、いろいろな助けをいただきながら、させていただいているという気持ちである。それは、「自分たちを支えてくれている人間や他者に対する感謝」であり、「大恩ある自然」という意識である。

いま求められているのは、自然に支えられながら、自然を算奪する矛盾に満ちた人間のあり方を直視しながら、それでもなお自然とともに生きる社会をつくりだそうとする決意である。しかもそれは、自分たちの歴史を悲しみをもってみる「まなざし」とともにあると。

わたしはこの「悲しみをもってみる『まなざし』」という箇所におおいにひかれた。自然の算奪をせざるを得ない人間はまさに矛盾にみちた存在である。内山さんの問いかけは、原発維持を無邪気に主張する人々にはもちろんのこと、代替エネルギーその他で現代の生活水準を維持することは可能という人々にも、自らの寄ってたつ文明について再考することを求めているような気がしてならない。

2012 年 10 月 04 日

山崎農業研究所会員・田口　均
yamazaki@yamazaki-i.org

山崎農業研究所編・発行／農山漁村文化協会発売
『自給再考――グローバリゼーションの次は何か』
（発売：2008/11　定価：1,575 円 ）
http://shop.ruralnet.or.jp/b_no=01_4540082955/
　たくさんの書評・紹介記事をいただいています。感謝・感謝です。

◎辻信一さん（文化人類学者、ナマケモノ倶楽部世話人。明治学院大学教授）
　グローバルの次は何？ ～卒業するゼミ生諸君へ
　http://www.sloth.gr.jp/tsuji/library/column64.html
◎戎谷徹也さん（大地を守る会）
　ブログ：大地を守る会のエビちゃん日記　“あんしんはしんどい”
　「自給率」の前に、「自給」の意味を
　http://www.daichi.or.jp/blog/ebichan/2008/12/16/
◎吉田太郎さん（長野県農業大学校教授、執筆者）
　キューバ有機農業ブログ 自給再考の本が出ました
　http://pub.ne.jp/cubaorganic/?entry_id=1822182
◎関良基さん（拓殖大学政経学部）
　ブログ：代替案　書評：『自給再考　－グローバリゼーションの次は何か』
　http://blog.goo.ne.jp/reforestation/e/cb22650fa39384bdd22b61440fa81fa0
◎大内正伸さん（イラストレーター・ライター）
　ブログ：神流アトリエ日記（3）「書評『自給再考』」
　http://sun.ap.teacup.com/applet/tamarin/20081204/archive
◎ブログ：本に溺れたい グローバリゼーションの次は何か
　http://renqing.cocolog-nifty.com/bookjunkie/2009/01/post-841e.html

◎森川辰夫さん
NPO 法人 農と人とくらし研究センター／資料情報
http://www.rircl.jp/shiryo.htm
◎日本農業新聞／書評
（2009/01/19 評者：日本農業新聞編集委員 山田優）
http://yamazaki-i.org/
（画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい）
◎小谷敏さん（大妻女子大学）
日本海新聞コラム「潮流」／「自給」の方へ（2009/01/31）
http://blog.goo.ne.jp/binbin1956/e/c895f6619b30ba7725e264b4daa75219
◎白崎一裕さん（(株) 共に生きるために）
月刊とちぎ V ネットボランティア情報 vol.158／しみん文庫
http://yamazaki-i.org/
（画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい）
◎塩見直紀さん（半農半 X 研究所、執筆者）
ブログ：半農半Xという生き方～スローレボリューションでいこう！
立国集。
http://plaza.rakuten.co.jp/simpleandmission/diary/200812270000/

◎お願い「＜読者の声＞の投稿規定・メールの書き方」

1、件名（見出し）を必ず書いて下さい。「はじめまして」は省略して、言いたいことを具体的に。
2、氏名・ハンドルネームは、文末ではなく始めのほうに。
3、1 回 1 テーマ、10 行位に。
4、ホームページを持っている人は、文末に URL を。
5、JIS X0208 規格外の文字（機種依存文字）のチェックを。
http://www.chem.sci.osaka-u.ac.jp/networks/check/jisx0208.html
インターネットで使えない丸数字や半角カタカナ、括弧入り略号などは文字化けの原因です。

次回 342 号の締め切りは 10 月 15 日、発行は 10 月 18 日の予定です。

＜本誌記事の無断転載を禁じます＞
****
隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」　第 341 号
最新号・バックナンバーの閲覧
http://archive.mag2.com/0000014872/index.html
http://nazuna.com/tom/denshico.html
購読申し込み／解除案内
http://www.yamazaki-i.org
2012.10.05（金）発行　　山崎農業研究所＆編集同人
mailto:yamazaki@yamazaki-i.org
**********ここまで『電子耕』**********